

# ふるさと再発見

## ～重源上人の里みてある記～

### (十一) 三島神社・鯖さばの伝説

奈良東大寺再建大勸進俊乘房重源上人は用材を求めて周防に下り、用材採用の拠点として安養寺を建立しましたが、最初に取り掛かったのがすぐ北側の鯖さばの山です。三島神社は造林の鎮守神として、伊豆国賀茂郡三島大明神から勸請かんじょうし、この鯖地区の現在地に、用材採用事業の成就と職人たちの安全祈願のために建立されたお宮です。

安養寺縁起の後半には、柚事業にまつわる色々な伝承が記されています。その一番目が鯖の伝説です。

「東大寺建立材木採用ノ為上人並ニ武田番匠其外諸職人等ヲ召連レ深山ニ行き所々ニ木屋ヲ築キ毎日材木採用セラレシ数日経テ職人等戯レニ曰ク我等故郷ヲ出シヨリ以来山中ノ事ナレバ魚肉ヲ食セズト云ヘバ上人是ヲ聞召シ直ニそまかど 柿かきニ鯖ト字ヲ書キ加持シテ池中ニ投ズレバ忽チ鯖ト化ス彼ノ職人等怪シミナガラ是ヲ取り食フニ真ノ鯖也。是ニ依テ在名ヲ鯖之河内ト言フ也」とあります。

これは単なる伝説ではなく、重源上人は実際に木片に鯖と書いて祈祷し、池に投げ込んだ後、用意した鯖を職人たちに食べさせたのでしょ。山中での貴重な栄養源ですから、祈祷した鯖を食べた職人たちは元気百倍して、仕事に励んだことでしょう。大勢の人を賄う為に漁師から大量の塩鯖も調達したでしょう。

同様の伝説は柚野地区では川で行ったので、鯖川と言う也、とあります。あれこれと調べていくうちに納得できる事実にとどりつきました。これをきっかけに、史跡や伝説の現地を尋ねて観て歩記を始めました。

鯖にはもう一つ「ウナギを食べない」話があります。重源上人とは関係ありません。昔々、一山奥の杉の河内村で大変大きなウナギが取れたが、大きすぎて食べきれないので、近隣の七か村で分けて持ち帰り、みんなに配り食べたは良かったが、夜になると村中の家で腹痛を起こす人が続出し、三日後には大ウナギを食べた七か村で疫病が広がり、死亡者が続出しました。鯖村では、大変なことになった、この山の大切な樹木を守る川の主の大ウナギを食べたからだろうということになり、村人は鯖村の鎮守三島神社に集まり、神前に深くお詫びをして、今後はウナギを食べないと強く誓いあい、それ以来、十三年ごとに欠かさず神舞を奉納し、鯖村は、戦後の食糧難時代もウナギは食わず、現在も食わずに延々と守られています。



三島神社の鳥居と狛犬

私は昭和四十五年に法光寺住職として九州からきましたが、故郷は佐賀県の実験の生活でしたから、山口の山寺で魚に縁が薄い精進生活を覚悟して来たのに、お寺の住所が海の魚の鯖河内にはびっくりしました。早速「鯖」の地名について尋ねますと、縁起と同じ内容の話でした。そしてその夜引き継いだ書類の中の安養寺縁起を見て、東大寺再建に関わった由緒ある寺と知り二度びっくりでした。